

第8 回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 議事録

■日時：平成28年3月10日（木）午後3時00分～午後5時00分

■場所：吉野町中央公民館2階 第3・4研修室

■出席者：第8回吉野町まち・ひと・しごと創生推進会議 出席者名簿のとおり

1. 開 会

2. 会長挨拶

■会長挨拶：

- ・皆さんこんにちは。自身はできるだけ多くの方々と関わりながら地方創生に取り組んでいきたいと考えている。部分個別最適化ではなく全体最適化を目指しており、その前段としてできるところから繋いでいく準最適化という考え方がある。そのあたりも本日の会議を通じて話をしたいと考えている。よろしくお願いします。

3. 案 件

(1) 各ワーキンググループの取組の報告並びに今後の活動内容の共有、意見交換

◎事務局より資料【参考】第4次吉野町総合計画後期基本計画 [概要版] を基に第4次吉野町後期基本計画策定に関する説明。

◎事務局より資料2 を基に平成27年度国勢調査 人口速報集計結果について説明。

◎事務局より資料1 を基に総合戦略における平成28年度の主な取組について説明。

◎会 長：

- ・説明事項につきご質問のある方はお願いします。

◎委 員：

- ・資料1 の総合戦略の主な取組における予算は3月の議会承認を経て決まるといことで間違いないか。

◎事務局：

- ・そのとおりでございます。

なお、現在議会中であり、17日まで行っている。今回の議会を経て予算については決定することになる。

◎委 員：

- ・総合戦略における平成28年度の主な取組における地域おこし協力隊12名採用は確定事項か。

◎事務局：

- ・予算ベースでの数値であり、募集については今後かけていく方もいる。

◎会 長：

- ・各ワーキンググループの進捗状況等について、順にご説明をお願いします。

◎委員：

- ・10月以降の木の子WGの動きとしては見附三茶屋の使用に伴う、プロポーザルを行った。本から始まる地域コミュニティとしての提案を行い、4月以降の使用における採択を受けた。使用については検討段階であり、7月を目指して、内装の整備を行っていくことを予定している。3年をかけて外装も含めた整備を行っていく予定。様々な方々との話し合いの中で、より良い施設になるよう検討を行っているところである。
- ・12年前より木の子文庫は社会福祉協議会、保健センターと連携してブックスタートを実施しており、赤ちゃんが最初に出会う絵本を2冊プレゼントしている。本日を伺ったところ、7組の実施があったと聞いており、自身は多いという印象を受けた。
- ・文庫における去年一年の集計を行った。まちづくり交付金をもって様々なチャレンジができるようになり、3年目でお母さん達に少しでも利益が還元されればと考えていた。1年目はお母さん達の会館は10回にも満たなかったが、昨年の集計では37回もあり、気運の高まりを感じた。
- ・7月に向けて各WGの意見も踏まえつつ、良い施設にしていきたいと考えている。

◎委員：

- ・民泊と木育に関する施設の設置を検討しており、来年度に向けて運営等も含め話を進めていきたい。場所等についても現在検討を行っており、民泊や木育に関する拠点となるような施設となるよう今後も町と連携のもと協議を重ねていきたいと考えている。

◎委員：

- ・10月までは、国栖のWGとして8名で活動を行ってきたが、10月末頃より県の南部東部振興課と連携のもと、「国栖の未来を考える会」ということで、国栖地区の全世帯の方に案内を行い4回の会議を行った。第1回会議においては80名の参加があり、多くの若年層の方にも参加していただくことができた。その会議において、様々な意見の交換を通じて、国栖小学校の解体とその利活用についての話を進めてきた。来年度において、町支援のもと解体を進め、改めて利活用を検討していく。
- ・地域の歴史文化を研ぎ、世界に発信していく必要があると感じている。海外の方等が訪れた際にくつろいでもらえるような施設整備を進めていくことも大切であると感じており、良い歴史・文化・自然を活かす環境が必要であると思う。
- ・また、国の考えと地方とでは有害鳥獣の話も含めてかなりズレている部分があるように感じる。
- ・大臣が外交の際に奈良県の和紙をPRするといった動きもあり、国栖においてもこういった動きに準じた動きを作っていくことが急務であると感じている。

◎委員：

- ・スポーツクラブの運営に際しては、スポーツを通じたまちづくりを基本理念に取り組んできたが、現在やっていることを再度掘り返して取り組んでいく必要があると感じている。他市町村においては、スポーツを行っている方とそうでない方で健康面での差異が生じているとのデータも出ており、数値化も考えてスポーツ振興に取り組んでいくことも必要であると考えている。
- ・現在各4地域で実施しているウォーキング事業について参加者に対して、長寿福祉課や他団体と連携を取りながら、数値をとっていききたいと考えている。ウォーキングの内容充実や環境整備も

含めて今後考えていく必要があると感じている。

- ・また、各大字単位でのスポーツに関する取組についても検討して取り組んでいく必要があると感じている。
- ・町民体育祭についても、今年は60周年でもあるため、様々な方にスポーツに取り組んでもらえるようなきっかけづくりを行っていききたい。

◎委員：

- ・事業承継WGに関しては、商工会を対象にしたアンケートを実施した。実施結果について事務局の方報告をお願いします。

◎事務局：

- ・資料【参考】小規模事業者経営実態アンケート調査結果についてを基に説明。

◎委員：

- ・結果を有効に活用して今後も事業承継に向けて取り組んでいきたいと感じている。

◎委員：

- ・現在若手のメンバーを中心に活発な話し合いが行われており、吉野山においてセミナーを開催の上関係団体の周知と理解を得て、観光振興に向けた気運を高めるための活動を行ってきた。
- ・観光について、日本全国に旅館の組織があり、民泊については3年ほど前に反対があったが、国の民泊推進の動きもあり、現在は条件闘争の状態にある。旅館については保健所の審査等、運営に際して厳格な基準があるのに対して、民泊に関しては基準が緩いことが問題になっている。吉野については桜の時期に際しては宿泊地の不足に関する問題もあるため、民泊に関する取組については賛成である。
- ・外国人特に欧米人にとっては日本語表記については全く読めないのであり、食堂についてもイラスト等を考慮することや、外国語表記により食品を説明するなど工夫を凝らす必要がある。
- ・観光、商工ともに一体となって地域振興に取り組んでいく必要があると感じている。

◎会長：

- ・その他に意見がなければ、次の次第に移ります。

◎委員：

- ・吉野高校に関する今後の取組についてご説明したいことがあるのでお願いします。資料を配付します。
- ・吉野高校の今後のあり方について、昨年の9月に県教育委員会と吉野町に提案をさせていただいたところである。本校については近年継続的に定員割れの状態が続いており、今年に関しては森林関連の学科についても志願者が非常に少なくなっている状況である。
- ・今後は県立高校という枠組みにとらわれない大胆な改革が必要であり、来月から3年間の耐震工事に入るが、工事完了を見据えて、行政機関と教育機関を併せ持つ施設に改良することを検討している。過疎化の進む吉野町において、地域おこしのプロフェッショナルを呼び、全国募集を視野に入れ、地域振興に関心のある生徒を集め、地域活性化のモデルスクールとなるような施設にしたい。
- また、高取町にある森林技術センターについても吉野高校への移設を検討している。町との連携も強化しつつ話を進めていきたい。日本全国より注目を浴びるような学校施設になるように取り組んでいきたいと考えている。

◎委員：

- ・吉野の今後を考える上で愛着のある良いアイデアと取組であると感じる。

◎会長：

- ・ご質問のある方はいますか。

◎事務局：

- ・総合戦略にも今後の学校についての記載はなされている。この取組については県や他団体とも連携して進めていくことが必要であり、昨日の議会においても一般質問として提出されていた議題である。

◎会長：

- ・高校ではなく、専門校として存続させるということで良いのか。
また、教員については現在勤務している方とは別に改めて専門的な人材を募集するということで良いのか。

◎委員：

- ・その通りである。専門校という形になり、指導者についてもあらためて募ることを予定している。

◎委員：

- ・推進会議は様々な分野での最も進んだ取組を聞かせていただく良い機会であると感じている。
木工振興や国産材での取組も知り、本会議の結果が今後の地方創生に関する取組が進んでいく上で良い果実になっていけば良いと感じている。

◎委員：

- ・推進会議を経て策定された総合戦略の推進について、自分達も微力ではあるが、関与できていることを改めて感じている。

◎会長：

- ・昨年、早稲田大学及び東京芸術大学の建築家がヨーロッパに視察に行った際に、木造建築4階建てや非常階段の木造化等の進んだ取組を目の当たりにし、日本の木造建築の遅れを感じたと伺った。

そこで、木造建築の特区と海外からの来訪者における交流拡大の拠点づくりを行う計画があり、2030年を目標に取り組んでいるところである。

- ・実践型雇用創造事業においては、川上、東吉野、吉野町の1町2村で連携して、雇用創出・地域振興に取り組むことを予定しており、国に申請中のものが採択されれば28年度より事業に取り組んでいく。広域で連携して観光・商工に取り組んでいくことは重要である。
- ・年間で120を越える市町村への訪問を行っているが、そこで良く質問されるのがこれからは地域のスペシャリストが必要になってくるのではないかということである。大学院での修学等、日本の専門教育の充実を図っていくことが必要である。
- ・もうひとつよく質問されることは、一生懸命やっているがなかなか輪が広がらないということである。原因としては、分かりやすい説明が出来ていないということが挙げられる。説明を受ける側の理解を得なければ協力体制を築くことは難しい。また、町内会活動において、先日伺ったまちでは、町内の自治会組織が6割を切っていると伺った。高齢の方はどうせ役にも立たない、若年層の方々においては任意のため加入はしなくても良いのではと言っていた。

そこで問題となるのは、行政から自治会組織に情報提供等を行っても、地域全体に浸透しないという事である。吉野町の組織率は現在9割を越えているが、今後は行政が中間となって分かりやすいと説明と情報共有を行っていくことも考える必要がある。

(2) 平成28年度の推進会議の開催について

・事務局より【資料3】ワーキンググループ実施要綱(案) 資料【参考】推進会議設置要綱を基に説明。

◎会長：

・今後の推進会議については、総合戦略の推進と検証という事で年4回を目処に開催していきたいと考えている。よろしくお願いします。

(3) その他

◎会長：

・その他報告事項や質問があればお願いします。

◎事務局：

・今年度については、総合戦略の策定にご尽力していただきましたが、来年度以降は推進と検証に関しましてご協力いただきますようお願いいたします。

◎委員：

・推進会議に参加させていただく中で、まちの様々な魅力や取組を改めて認識することができ、良い経験となった。

◎オブザーバー：

・これまで推進会議に参加させていただいて、ご意見を伺う中で、来年度においては国栖地域において、小学生や中学生等の子ども達が地元へ愛着をもてるよう、現在県においても予算化に向けた取組を進めているところである。推進会議は現場の声を聞かせていただくことの出来る良い機会であり、今後も積極的に参加させていただきたいと考えている。

4. 閉会

◎会長：

・ではこれで第8回の推進会議を終了します。皆さんありがとうございました。